

令和7年度 社会科 歴史的分野 <第2学年> 年間指導計画と評価規準

社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵（かん）養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

社会科 歴史的分野 第2学年の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵（かん）養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国

第2学年年間指導計画(評価規準)

★ 知は、知識・技能 思は、思考・判断・表現 主は、主体的に学習に取り組む態度

月	単元名	指導内容	評価規準		評価方法
11	第3章 近世 武家政権の展開と世界の動き 第1節 大航海によって結び付く世界 ◇節の問い◇ ヨーロッパの国々は、なぜ世界に進出したのだろうか。	○新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きにもなっており、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易がさかんになり、それらが日本の社会に影響を及ぼし、近世社会の基礎がつけられたことを理解させ、新航路の開拓の背景となるアジアの交易の状況などの役割と世界の結びつきに気づかせる。	知	ヨーロッパ人來航の背景とその影響をもとに、近世社会の基礎がつけられたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	交易の広がりとその影響に着目して、アジアにヨーロッパが進出する中で、世界の交易の空間的な広がりが生み出され、日本とヨーロッパ諸国の接触が起こったことや、日本の政治や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	世界の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
11	第2節 戦乱から全国統一へ ◇節の問い◇ 全国統一が進むなかで社会はどのように変化したのだろうか。	○信長が行った仏教勢力への圧迫や關所の撤廃、秀吉が行った検地・刀狩などの政策によって、中世の大きな勢力が力を失い、中世までとは異なる社会が生まれていったことや、南蛮文化が取り入れられる一方、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪華・華麗な文化が生み出されたことに気づかせる。	知	織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などをもとに、近世社会の基礎がつけられたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	統一政権の諸政策の目的に着目して、中世社会から近世社会への変化が生み出され、日本の政治や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	統一事業について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
11	第3節 武士による全国支配の完成 ◇節の問い◇ 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。	○江戸幕府の支配の下に大きな戦乱のない時期を迎え、中世から近世へへの転換のようすを、自分の言葉で表現させ、江戸幕府の成立と大名統制については、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気づかせる。	知	江戸幕府の成立と大名統制、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係をもとに、幕府と藩による支配が確立したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	統一政権の諸政策の目的に着目して、江戸幕府により全国を支配するしくみが作られ、安定した社会が構築されたことを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	江戸幕府の成立と対外関係について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察

12	第4節 天下泰平の世の中 ◇節の問い◇ 江戸時代の社会は、どのような社会だったのだろうか。	○身分制のもとで、身分の中で職分を果たしたこと、農村が幕府や藩の経済を支えていたこと、産業や河川・海上交通が発達したこと気づかせ、また、近世の文化について、三都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことなどを理解させる。	知	身分制と農村のようすをもとに、幕府と藩による支配が確立したこと、産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりをもとに、町人文化が都市を中心形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	江戸幕府により全国を支配するしくみが作られ、安定した社会が構築されたことを考察したり、日本の文化の空間的な広がりが生み出され、各地方の生活文化が生まれたことや、生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴を考察したりするなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	産業の発達と町人文化などについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
12	第5節 社会の変化と幕府の対策 ◇節の問い◇ なぜ幕府は改革が必要だったのだろうか。	○近世社会の基礎が動揺していったことや、財政の悪化などを背景とした幕府の政治改革を取り上げ、百姓一揆などに結びつく農村の変化や商業の発達などへの対応というねらいがあったこと、蘭学や国学などの中に新しい時代を切り開く動きがみられたことに気づかせる。	知	社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどをもとに、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	社会の変化と幕府の政策の変化に着目して、貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され、それらの背景として百姓一揆がおこったことや、社会や経済の変化への対応としての諸改革の展開を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	幕府政治の展開について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
12	第4章 近代（前半） 近代国家の歩みと国際社会 第1節 欧米諸国における「近代化」 ◇節の問い◇ 「近代化」の進展で、欧米諸国の政治や社会はどのように変化したのだろうか。	○アメリカの独立やフランス革命を取り上げ、政治的な対立と社会の混乱などを経て近代民主政治への動きが生まれたこと、産業革命を取りあげ、資本主義社会が成立したことや労働問題・社会問題が発生したこと、欧米諸国が新たな市場や原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことを理解させる。	知	欧米諸国における市民革命や産業革命をもとに、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへの進出したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、近代化の進展により欧米諸国の政治や社会がどのように変化したかを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	欧米における近代社会の成立について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
1	第2節 開国と幕府の終わり ◇節の問い◇ 欧米諸国が来航するなかで、人々はどうのような対応をしていたのだろうか。	○欧米諸国のアジア進出と関連づけて取り扱い、アヘン戦争後に幕府が対外政策を転換して開国したこと、その政治的および社会的な影響を理解させ、それが明治維新の動きを生み出したことに気づかせる。	知	欧米諸国のアジア進出による中国の動き、日本の開国と貿易の開始による政治的、経済的、社会的な影響を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
1	第3節 明治政府による「近代化」の始まり ◇節の問い◇ 明治政府はどのような国づくりを行ったのだろうか。	○明治維新について、富国強兵・殖産興業政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定を取りあげ、今日につながる諸制度がつけられたこと、欧米諸国の影響で、社人々の生活が大きく変化したことに気づかせる。	知	富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などをもとに、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	明治政府の諸改革の目的に着目して、諸改革が政治や文化や人々の生活に与えた影響を考察したり、明治維新について、近世の政治や社会との違いに着目して、近世から近代への転換のようすを考察したりするなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	明治維新と近代国家の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
2	第4節 近代国家への歩み ◇節の問い◇ 日本の「近代国家」の建設は、どのようなになされたのだろうか。	○自由民権運動の全国的な広まり、政党の結成、憲法の制定過程とその内容の特徴を取り上げ、大日本帝国憲法の制定によって立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことの歴史上の意義や現代の政治とのつながりに気づかせる。	知	自由民権運動、大日本帝国憲法の制定をもとに、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、日本の国際的な地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	議会政治や政治の展開に着目して、世界との関係や、現代の政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	議会政治の始まりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察

2	第5節 帝国主義と日本 ◇節の問い◇ 「近代国家」日本は、世界でどのような動きをしていったのだろうか。	○欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための長年の努力の過程で条約改正が実現したこと、大陸との関係をふまえて、日清・日露戦争にいたるまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを取り上げ、日本の国際的地位が向上したことを理解させる。	知	条約改正、日清・日露戦争などをもとに、日本の国際的な地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	外交や戦争の展開に着目して、世界との関係や現代の政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	国際社会との関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
3	第6節 アジアの強国の光と影 ◇節の問い◇ 「近代化」によって、日本の産業や社会はどのように変化したのだろうか。	○富国強兵・殖産興業政策の下、近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展して、資本主義経済の基礎ができたこと、都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたこと、労働問題や社会問題が発生したこと、伝統的な文化の上に欧米文化を受容して、日本の近代文化が形成されたことに気づかせる。	知	日本の産業革命とこの時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などをもとに、日本で近代産業が発達し、近代文化が形成されたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			思	近代化がもたらした文化への影響に着目して、産業の発展が国民生活や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	ノートの記述 定期考査 授業観察
			主	近代産業の発達と近代文化の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	ノートの記述 定期考査 授業観察